

ChatGPT 4o

共有する

Hi

あなた:

サムリア分類支援機能の特許情報分析に活用.docx
ドキュメント

4_サムリア分類支援機能の特許情報分析に活用してみた(上村侑太郎).pdf

PDF

講演の文字起こしと講演に使用した pdf ファイルです。ステップバイステップで要約してください。

ChatGPT:

ChatGPT

以下に提供された講演の文字起こしと PDF ファイルの要約をステップバイステップでまとめます。

1. 概要

- **テーマ:** サムリア分類支援機能を用いた特許情報分析の効率化。
 - **目的:** サムリアツールの活用により、特許情報分析にかかるコスト削減と分析精度の向上を目指す。
-

2. 講師の背景

- **講師:** 上村侑太郎
 - 化学メーカー知財部門(IP ランドスケープ専任)。
 - 副業として土業向けのブランディング支援やイベント企画を実施。
-

3. 特許情報分析の課題と解決策

課題:

- 技術体系や上位・下位概念を把握するための工数が多大。
- 分類を自社目的に合わせて構築・付与することの難しさ。
- 従来の IPC/CPC などの分類では自社の技術状況に適応しきれない。

解決策:

- サマリアの「分類支援」や「分類展開」機能を活用して、技術概念を効率的に把握・分析。
 - GPT を用いて検索式や分類定義を作成することで工数を大幅に削減。
-

4. サマリア分類支援のプロセス

(1) 検索式の作成

- GPT を活用して、技術領域(例: AR/VR)に関する検索式を生成。
- 具体例: J-platpat 用の検索式を自動生成。

(2) 分類展開

- サマリアを用いて「発明用途」「技術課題」「解決手段」などの軸で分類を展開。
- 未知の技術領域でも、技術体系を大まかに把握可能。

(3) 分類付与

- 分類展開で得られた技術体系を基に分類定義を作成。
- 分類定義をテンプレート化し、さらに特許分類付与に利用。

(4) 自動分類

- 作成したテンプレートを使い、新しい特許データセットに対して自動分類を実施。
-

5. 具体的な活用事例

- AR/VR 分野の技術動向分析
 - 発明の用途、技術課題、手段に基づき特許を分類。
 - 分類付与の結果を基に、特許情報を体系的に把握。
-

6. アウトプット例

- 大分類と小分類:
 - 例: ディスプレイ技術 → 2D 表示、3D 表示、AR/VR ディスプレイ。
 - カメラ技術、音声技術、VR/AR 技術、コンテンツ生成技術など。
 - ピボットテーブル処理:
 - サマリアで出力されたデータを Excel で処理し、視覚的に分かりやすく整理。
-

7. 結論と提案

- GPT の活用可能性: 特許情報分析の効率化。
 - 自社分類の利点: 自社の目的に即した正確なデータ取得が可能。
 - 提案: サマリアを用いて特許分析を進めることで、特許情報を基にした意思決定を高度化。
-

さらに詳細な内容や具体的なデータの解釈についてお知りになりたい場合はお知らせください。

4o

あなた:

「3. 特許情報分析の課題と解決策」の部分を詳しく

ChatGPT:

3. 特許情報分析の課題と解決策（詳細版）

3-1. 特許情報分析における課題

1) 工数の多さ

- **技術体系の把握:**
 - 分析対象の特許情報から、技術の上位概念や下位概念を整理することに膨大な時間と労力が必要。
 - 例えば、複数の特許にわたる類似技術のグルーピングや新規技術の発見には多大な工数がかかる。
- **分類の構築・付与:**
 - 自社の目的に合わせて独自の分類を作成する際、特許文書を1件ずつ読み込み、その内容に基づき分類付与する必要がある。
 - 特に新規技術や未経験の分野では、この作業はさらに複雑。
- **可視化の難しさ:**
 - 分類付与後にデータを可視化する作業も手作業が多く、効率的なデータ処理が求められる。

2) 従来国際特許分類の限界

- **IPC/CPC/FI 分類の問題点:**
 - IPCなどの標準的な特許分類は、特許情報を統一的かつ効率的に検索するために作られているが、自社独自の分析目的にマッチしない場合が多い。
 - 分類の粒度が分析対象に適していないケースがあり、目的に合致した詳細な考察が難しい。

3) 自社目的との不整合

- 例えば、特定の市場や技術領域における競合分析を行う場合、標準分類では技術の進化やビジネス意図を的確に捉えられない。
- 分析目的に応じて柔軟な分類方法を設定できなければ、アウトプットの精度が低下する。

3-2. 解決策

1) サマリア分類支援機能の活用

- **分類展開機能:**
 - 未知の技術領域でも「発明用途」「技術課題」「解決手段」などの軸で分類を展開。
 - 特許情報を AI が自動的に分類し、技術体系を迅速かつ正確に把握。
- **分類定義機能:**
 - 分類展開で得られた情報を基に、自社の分析目的に適した分類を定義。
 - この分類定義をテンプレート化することで、新しい特許データセットに再利用可能。
- **分類付与機能:**
 - 定義した分類を基に、特許データを自動的に分類付与。
 - これにより、従来手作業で行っていた分類作業を大幅に効率化。

2) GPT による検索式の自動生成

- GPT を活用して特許データの検索式を自動生成。
 - 例: AR/VR 技術に関する特許を検索するための J-platpat 対応検索式。
- 検索式作成にかかる工数を削減し、初心者でも高精度の検索が可能に。

3) 自社分類のメリット

- 自社のビジネスニーズや技術目標に即した分類を構築することで、以下を実現:
 - **分析精度の向上:** 自社が特に注目している技術範囲にフォーカスした結果が得られる。
 - **競合の戦略把握:** 自社分類を用いることで、競合企業が注力している技術分野や課題を明確化。
 - **柔軟性の向上:** 標準分類ではカバーしきれない細かな技術的違いを反映可能。

4) 工数削減

- サマリアの AI 機能を活用することで、特許情報分析の以下のプロセスで効率化:
 - 検索: GPT が自動生成した検索式を活用。
 - 分類展開: 特許情報を技術体系や課題ごとに迅速に整理。
 - 分類付与: 定義された分類をもとに自動付与。
 - 可視化: ピボットテーブルを利用したデータ整理やグラフ化。
-

3-3. サマリア導入の効果

- **コスト削減:**
 - 手作業の分類作業が不要になり、特許分析の全体的な工数が大幅に削減。
 - 高度な分析を低コストで実現可能。
- **精度向上:**
 - AI による分類付与と分析展開により、人間では見逃しがちな洞察が得られる。
- **柔軟性の確保:**
 - 自社目的に合わせた分類を容易に設定・修正可能。

このように、サマリア分類支援機能と GPT を組み合わせることで、特許情報分析の課題を総合的に解決し、効率と精度の両立を実現する仕組みが構築されています。

4o

あなた:

「AR/VR 分野の技術動向分析 発明の用途、技術課題、手段に基づき特許を分類。分類付与の結果を基に、特許情報を体系的に把握。」部分を詳しく。

ChatGPT:

ChatGPT

AR/VR 分野の技術動向分析: 詳細説明

1. 分析の目的

- **未知の技術領域 (AR/VR) の技術動向を把握:**
 - 国内企業がどのような技術を出願しているか。
 - 技術概念や課題がどのように進化しているか。
 - 時間的推移を含めて市場全体の技術的方向性を理解する。
 - **具体的な観点:**
 - **企業視点:** どの企業がどの技術分野に注力しているか。
 - **技術視点:** 技術的課題や解決手段がどのように進化しているか。
 - **時間的推移視点:** 過去から現在にかけての技術の進化トレンド。
-

2. 分析のプロセス

1) 検索式の作成

- **検索範囲:**
 - AR/VR 技術に関連する特許を検索対象に設定。
 - 国内特許に限定。
- **検索式の自動生成:**
 - GPT を活用して、J-platpat 用の検索式を作成。
 - 例: 「VR」「仮想現実」「AR」「拡張現実」など、関連キーワードを用いた検索式を生成。

2) 分類観点の設定

- **特許情報を以下の分類観点で整理:**
 - **発明の用途:** この技術が何に使われるのか (例: ディスプレイ、ヘッドセット)。
 - **技術課題:** この技術が解決する課題 (例: 現実と仮想の融合、表示のリアルタイム性)。
 - **解決手段:** 技術課題を解決する具体的な手段 (例: 3D レンダリング、モーションキャプチャ)。

3) 分類展開

- **サマリアの分類展開機能を活用:**
 - 特許情報をサマリアに読み込ませ、技術の「発明用途」「技術課題」「手段」に基づく分類を実行。

- 分類結果はサマリアが自動的に提供。
- **分類の利点:**
 - 未知の技術領域であっても、大まかな技術体系を理解可能。
 - 特許文書を全件読む必要がなく、重要な技術要素を素早く抽出できる。

4) 分類定義の作成

- **技術体系の明確化:**
 - サマリアで生成された分類展開結果を基に、自社目的に応じた分類定義を作成。
 - 例:
 - **大分類:**「ディスプレイ技術」「音声・オーディオ技術」「カメラおよびセンサー技術」など。
 - **小分類:** 2D 表示、3D 表示、AR ディスプレイなど詳細な分類。
- **分類定義のテンプレート化:**
 - 一度定義した分類はテンプレートとして保存し、新たな分析対象にも再利用可能。

5) 自動分類の実行

- **分類付与:**
 - 作成した分類定義をサマリアにインプット。
 - 新たな特許データセットに対して、自動分類を実行。
- **出力結果の確認:**
 - 特許ごとに分類が付与され、各特許がどの用途や課題に属するかが整理される。
 - 特許 1 件に複数の分類を付与可能。

3. 分析結果の活用例

1) 技術動向の把握

- **例: ディスプレイ技術:**
 - **大分類:**「ディスプレイ技術」
 - **小分類:**

- 2D 表示: 平面的な画像表示技術。
 - 3D 表示: 立体的な画像表示技術。
 - AR ディスプレイ: 現実世界にデジタル情報を重ねて表示。
 - VR ディスプレイ: 仮想現実の世界を表示。
- 用途別の技術の出願傾向:
 - 発明用途に基づき、各企業がどのディスプレイ技術に注力しているかを明確化。
 - 例えば、ある企業が「VR ディスプレイ」に特化した特許を多数出願している場合、その企業の技術戦略や製品開発方針が読み取れる。

2) 競合分析

- サマリアの分類機能を活用して、競合企業の技術課題や解決手段を分析。
- 例: 特定企業が VR ゴーグル技術に集中している場合、それに対する技術的優位性を分析。

3) 時間的推移の分析

- 時系列データの整理:
 - 出願年ごとに技術分類を集計し、技術進化のスピードや注目領域を特定。
 - 例: 2017 年以降、「AR コンテンツ」に関する特許出願が急増している場合、その技術分野が市場で注目されていることが分かる。

4. サマリアの優位性

- サマリアの分類展開と分類付与機能を活用することで、特許情報を効率的かつ体系的に整理。
- 特に AR/VR のような未知の技術領域では、手作業では見逃しがちな技術的な洞察を得ることが可能。

これにより、特許情報を活用した意思決定や競争戦略の策定に大きく貢献できるとされています。

あなた:

「提案: サマリアを用いて特許分析を進めることで、特許情報を基にした意思決定を高度化。」の部分を読む和紙苦

ChatGPT:

ChatGPT

提案: サマリアを用いて特許分析を進めることで、特許情報を基にした意思決定を高度化

1. サマリアを活用する意義

サマリアを利用することで、特許分析プロセスが効率化され、意思決定の精度やスピードが向上します。以下のポイントを通じて、特許情報をより有効に活用できます。

2. サマリアの具体的な貢献

(1) データ処理の効率化

- **AIによる自動化:**
 - 特許情報の検索式作成、分類展開、分類付与を自動化することで、手作業の負担を大幅に削減。
 - 分析者が技術内容を把握するまでの時間を短縮。
- **一括処理機能:**
 - 4000件規模の特許を一度に処理可能。
 - 大量データの効率的な処理が意思決定を迅速化。

(2) 特許情報の体系的理解

- **分類展開機能:**
 - 未知の技術領域や新しい市場についても、「発明用途」「技術課題」「解決手段」といった軸で技術体系を自動整理。
 - 技術要素を把握しやすく、意思決定に必要な洞察を引き出しやすい。
- **分類定義のテンプレート化:**

- 一度定義した分類を再利用することで、特定の技術領域に対する継続的な分析が可能。
- 長期的な戦略立案や技術監視に役立つ。

(3) 競争戦略の強化

- **競合分析の精度向上:**
 - 分類展開結果を基に、競合企業の注力分野や技術課題を的確に把握。
 - 例: AR/VR 分野での技術リーダー企業を特定し、その技術動向を追跡可能。
- **差別化のポイント発見:**
 - 自社と競合の技術戦略を比較し、未開拓領域や差別化可能な技術分野を特定。
 - 自社が優位性を確保できる技術分野を見極め、重点的な研究開発を支援。

(4) 意思決定支援

- **データ可視化:**
 - 分析結果をグラフやピボットテーブルで視覚化する機能により、経営層への報告や戦略提案が容易。
 - 技術分類ごとの出願数の推移や、競合ごとの技術領域分布を一目で把握。
- **時間軸での分析:**
 - 出願年や発明の進化を基に、技術トレンドを的確に予測。
 - 将来性のある技術領域にリソースを集中させるためのデータ基盤を提供。

3. 想定される具体的な効果

1. **経営戦略への反映:**
 - 特許情報を基にした市場機会の特定や事業化の判断が迅速かつ正確になる。
 - 特許ポートフォリオの構築や強化に役立つ。
2. **研究開発の効率化:**

- 重点分野を特定することで、リソースを最適配分。
 - 無駄な研究開発を削減し、新規技術の探索を加速。
3. 特許出願戦略の改善:
- 競合が進出していない分野での特許出願を促進。
 - 将来の市場での競争優位性を確保。
4. 投資判断の精度向上:
- 特許データを基にした企業の技術力評価や市場ポジション分析を可能に。
 - 技術投資や提携先の選定におけるリスク軽減。
-

4. サマリア活用の推奨フロー

1. 特許分析の目的設定:
 - 分析対象(例: AR/VR 分野)と目的(例: 競合分析、技術トレンド把握)を明確化。
 2. サマリアでのデータ処理:
 - 検索式作成 → 分類展開 → 分類付与 → 結果の可視化。
 3. 結果を基にした意思決定:
 - 経営戦略、研究開発計画、知財戦略の立案に結果を反映。
 4. フィードバックと改善:
 - 分析結果を反映し、新たな分類や検索式を定義。
 - サマリアのテンプレート機能を活用して分析プロセスを継続的に改善。
-

サマリアを用いることで、特許情報を単なるデータとしてではなく、経営や研究開発を導く高度な意思決定ツールへと昇華させることが可能です。

4o

あなた:

使用資料の最終ページのまとめを抽出して紹介してください。

ChatGPT:

ChatGPT

以下は提供された PDF 資料「4_サマリア分類支援機能の特許情報分析に活用してみた」の最終ページにある「まとめ」の内容を抽出して紹介します。

まとめ

1. **検索式の作成**
 - GPT を活用することで、特許分析に必要な検索式を効率的に作成できる時代が到来。
 - 初心者でも高精度な検索式が生成可能。
 2. **分類展開**
 - 技術内容や概念が不明な場合でも、サマリアの分類展開機能を用いることで、技術体系を明確化。
 - 自社の分析目的に即した分類を抽出し、さらに分類定義に活用可能。
 3. **分類付与**
 - サマリアで分類定義を作成し、テンプレート化。
 - 特許分類付与に利用することで、効率的かつ正確な特許分析を実現。
 4. **特許分析**
 - サマリアを活用することで、特許情報を基にした技術動向分析や競合分析が効率化。
 - 自社の意思決定に資する高品質なアウトプットを得られる。
-

この「まとめ」では、特許情報分析を効率化しつつ、精度を向上させるためにサマリアがどのように活用できるかが簡潔に整理されています。詳細が必要な部分があれば、さらに解説します。

4o